

令和3年度小中一貫教育推進計画書

中学校区名	天応中学校区
代表者所属校 校長氏名	天応中学校 坂口 守

- 1 目指す児童生徒像
「鍛える 想う 求める」子供

2 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資 質 ・ 能 力	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	自主性、主体性
後期	<u>構造化され生きて働く概念的知識や、自在に活用できる技能が身に付いている。</u>	（実社会・実生活の中から）問いを見だし、効率的・効果的に分析して、 <u>根拠を明らかにしながら、論理的に表現することができる。</u>	探究的な学習の過程において、実社会・実生活の課題を <u>自分のこととして考え、協働的に解決に向かい、社会に貢献しようとしている。</u>
中期	<u>新しく学習した言葉や技能を正しく理解し活用することが身に付いている。</u>	（実社会・実生活の中から）問いを見だし、効率的・効果的に分析して、 <u>根拠を明らかにしながら、順序立てて表現することができる。</u>	探究的な学習の過程において、実社会・実生活の問題を解決するために、（自分の意思で） <u>目標を持ち、友達と協力しながら解決に向かい、社会とつながろうとしている。</u>
前期	<u>新しく学習した言葉や技能を正しく理解している。</u>	身のまわりから問題を見つけ、 <u>集めた情報から考え、理由を明らかにしながら、相手に伝えることができる。</u>	自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを知るとともに、 <u>ちがう意見や友達の考えを大切にしながら、身のまわりのことと関わろうとしている。</u>

※ 天応中学校区では、カリキュラムマップの中核に総合的な学習の時間を設定している。そこで、各教科の知識・技能を働かせる総合的な学習の時間で育成をめざす資質・能力を参考にしながら上記の具体の姿を作成した。

3 研究主題と設定理由

(1) 研究主題

自他の知をつなげ、粘り強く学ぶ児童生徒の育成
～対話・探究・貢献を軸とした授業づくりを通して～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

天応中学校区では昨年度、目指す児童生徒像「自ら学び、考えを伝えることができる児童生徒」に迫るため、これまでの「教えて考えさせる授業・指導」を取組の礎とし、児童生徒の主体的な学びと発問、振り返りを重視した教育活動を推進してきた。

「学びを育む部会」では、育成すべき資質・能力を具体的に明記し、課題発見・解決学習を取り入れた学習指導案を作成した。小中で合同研究授業を行い、発問・振り返りの視点に基づく実践・活用について研修し、単元構成・単元計画を研究・作成した。また、「心を育む部会」や「体を育む部会」でも、小中で統一した「主体的な活動と自己評価」のサイクルを実施し、小中合同行事や「元気チャレンジ」・「体づくりにチャレンジ（フレッシュタイム）」の取組を行った。これらの取組によって、自ら考え、アイデアを出し、目的意識をもち、目標に向かって行動することができる児童生徒の育成を図ることができた。しかしながら、児童生徒の「主体性」や「考えを表出する力」に課題が残った。

令和3年度中学校においては、学習指導要領（平成29年告示）が全面実施となる。これに連動し、学習評価についても改訂され、1年先行していた小学校と動きがそろった。

さらに本中学校区は、本年度より「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」（県教委指定）を受け、探究的な学習の充実に向け、小学校と中学校が連携して、PBL（プロジェクト型学習）の考え方を参考に、生活科及び総合的な学習の時間の単元を開発・実践し、その成果を検証・普及する役割をいただいた。

これらのことは、本中学校区の学びの在り方を再構築していく機会と捉え、学校教育目標を「かかわる つながる よく生きる」と新たに設定した。さらに、目指す児童生徒像を『鍛える 想う 求める』子供」と設定した。これは、「より善い自分となれるよう自らを鍛え続け、対話を通じて自他の良さを見つける。他者と協働的に学びながら時や場の変化に相応した具体的な行動をとる。『なぜ』『どうして』という問いを持って学びを深めていく」児童生徒を想定したものである。

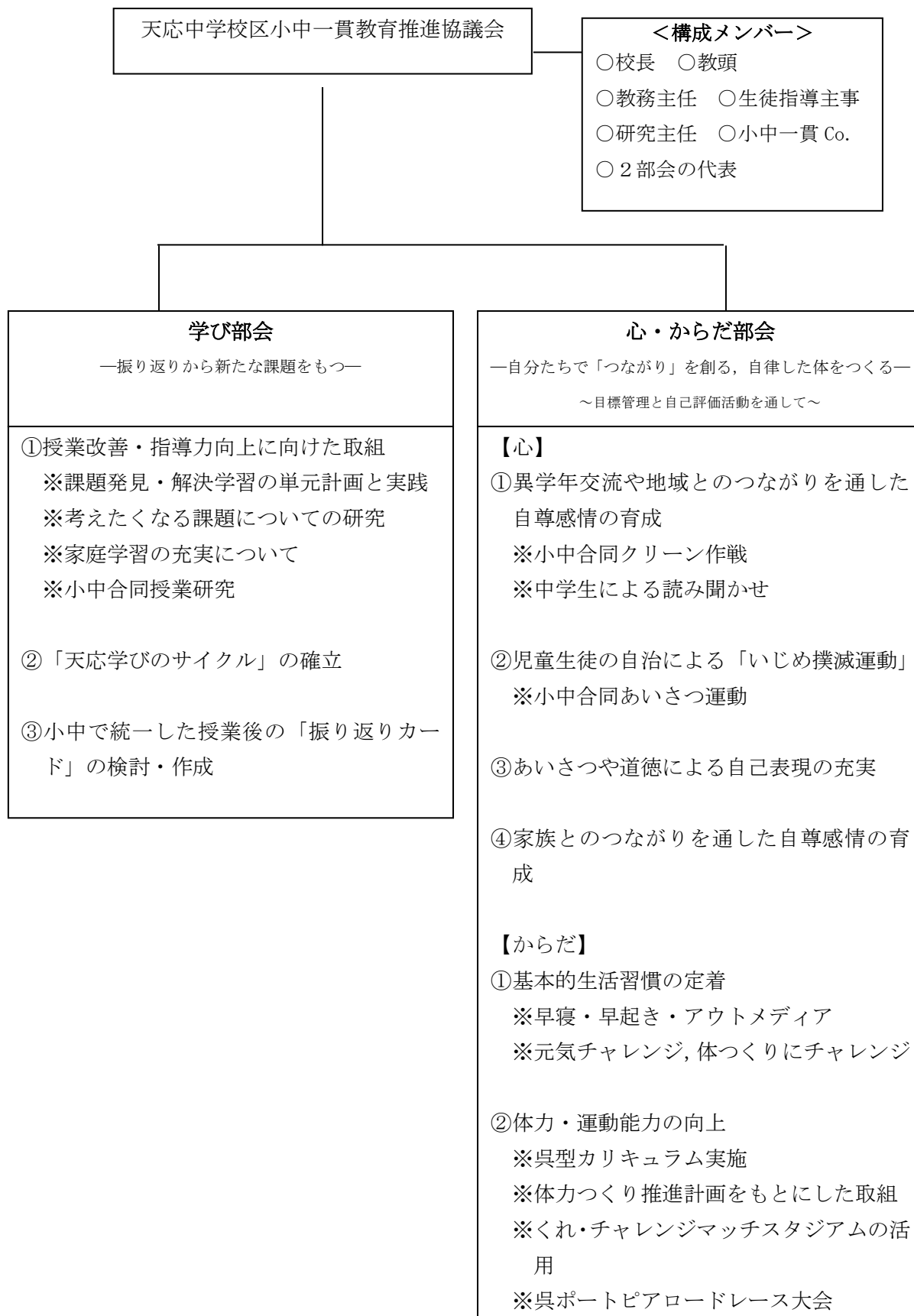
以上のことから、授業づくりについては、次のような取組を進めていく。

各教科においては、児童生徒が表出する考えの質及び主体的に学習に取り組む態度の向上を図る。総合的な学習の時間及び生活科においては、プロジェクト型学習の特徴である「『ひとつの解が存在しない、発展性のあるプロジェクト』を扱う学習」、「プロジェクトの遂行を通して、他の学習にも応用できる汎用的能力の育成を目指す学習」、「『社会に開かれた教育課程』の視点で、教科等を横断しながら、実生活・実社会の課題解決（社会へ還元）する学習」「『将来こうなるためにはどうしたらいいだろう？』と考え、現実と未来のギャップを埋めるような探究を組み込む学習」を踏まえ、これまでの実践の充実または、新規の単元開発を進めていく。

こうした取組を通して、本年度は、対話を通じて自他の知をつなげ自ら設定した課題について粘り強く探究することを求めていく。

そこで、本年度の研究主題を「自他の知をつなげ、粘り強く学ぶ児童生徒の育成～対話・探究・貢献を軸とした授業づくりを通して～」と設定した。

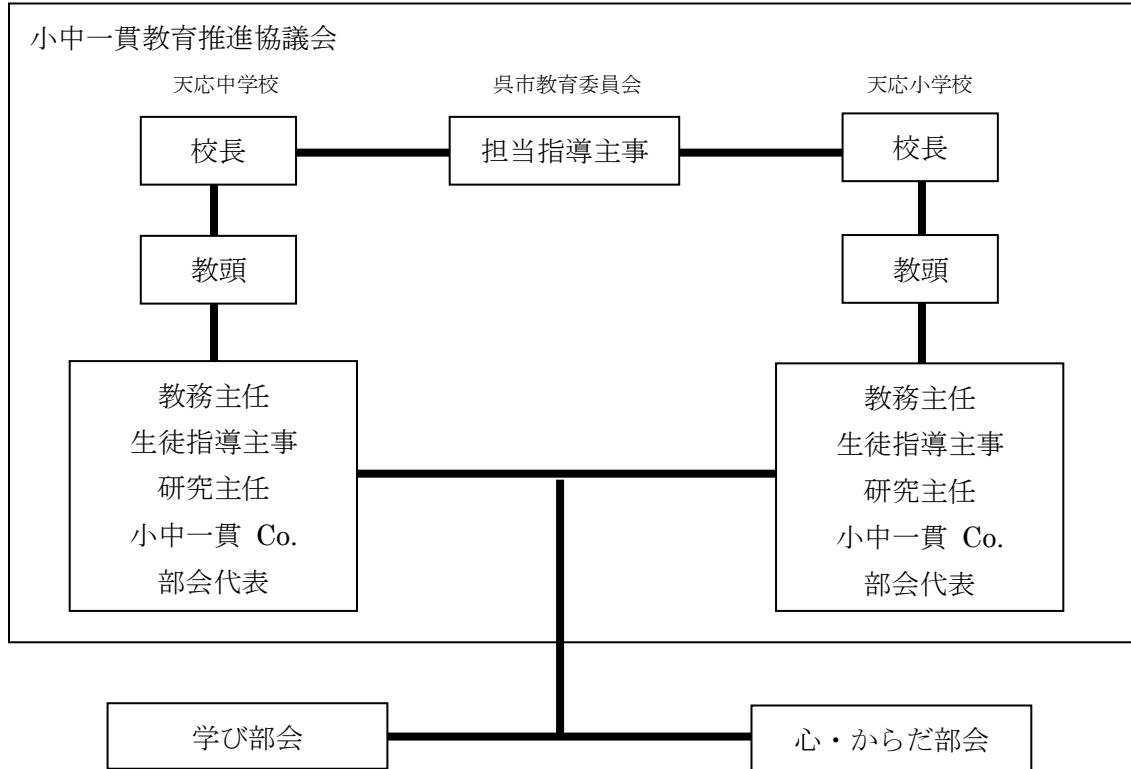
4 研究内容



5 推進体制

(1) 推進組織

天応中学校区小中一貫教育推進協議会をもちに、「学び部会」「心・からだ部会」の2部会構成で組織する。それぞれの部会は、独立ではなく、互いに連携し、取組を関連させて運営していく。



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業（中→小）

- ・小学校第6学年 体育科（2学期実施）
- ・小学校第6学年 総合的な学習の時間（週1回実施）
- ・小学校第5学年 総合的な学習の時間（週1回実施）

イ 小学校教科担任制等

- ・天応小 第3・4・5・6学年（音楽）
- ・天応小 第3・6学年（書写）
- ・天応小 第3・4・5・6学年（理科）
- ・天応小 第5・6学年（家庭科）

6 見込まれる成果及び検証方法

(1) 見込まれる成果

- ・主体的な学びを通し、児童生徒の思考力の向上を促し、表現力を育成することができる。
- ・振り返りを行うことで、児童生徒が達成感をもち、自らへの自信が高まる。
- ・地域・家庭・学校が一体となって、「つながり」を意識して取り組むことにより、児童生徒が主体的に学習・活動に取り組むことができる。
- ・体力・運動能力向上に向けて取組を実践することで、体力・運動能力向上を図ることができる。
- ・アウトメディア等の取組を実践することで、基本的な生活習慣の定着を図ることができる。

(2) 検証方法

- ・児童生徒の振り返りの記述の変容
- ・児童生徒の事前テスト・事後テストの比較・分析
- ・小中学校授業交流および授業研究における参観者の評価
- ・単元テスト、活用力テスト、定期試験、学力テスト（全国学力・学習状況調査等）の比較・分析
- ・体力づくり推進計画をもとにした取組結果の比較・分析
- ・児童生徒並びに保護者の意識調査（アンケート）の比較・分析

7 推進計画

月 日	内 容
4月 9日（金）	推進協議会① 16:00～
4月26日（月）	総会, 小中合同研修会①（本中学校区の育成すべき資質・能力や課題発見・解決学習の説明）・専門部会① 16:00～
6月17日（木）	小中合同研修会②（理論研修）・専門部会②
8月 4日（水）	小中合同研修③（理論研修）・専門部会③ 推進協議会②（1学期のまとめと2学期の計画）
9月24日（金）	小中合同授業研究指導案検討(中学3年・総合的な学習の時間)
10月22日（金）	小中合同授業研究(中学3年・総合的な学習の時間) ・小中合同研修会④ 推進協議会③（3学期に向けた確認）
10月26日（火）	小中合同授業研究指導案検討(小学6年・総合的な学習の時間)
11月26日（金）	小中合同授業研究(小学6年・総合的な学習の時間) ・小中合同研修会⑤
2月22日（月）	小中合同研修会⑥（実践報告）・専門部会④（今年度のまとめ）
3月25日（月）	推進協議会④（今年度のまとめ・来年度の計画）

※今年度は、小中合同研修6回・推進協議会4回・専門部会を4回実施する。

8 その他

- ・小中一貫校外学習（4月30日）
- ・小中一貫クリーン作戦（11月11日）
- ・呉ポートピアロードレース大会（12月6日）
- ・中学校入学説明会（1月27日）